

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

第 2 部 病院会計制度概論

第 12 章 財務諸表の分析 財務諸表の見方

12-1-3 キャッシュ・フロー計算書の見方

キャッシュ・フロー計算書は、資金繰表と異なり、3つの区分によるキャッシュの動きが重要である(図表 12-3)。

そのうち、業務活動によるキャッシュ・フローの区分は、いうまでもなく病院経営のいわゆる本業の部分からのキャッシュ・フローの状況を表すものである。よって、業務活動からのキャッシュ・フローがプラスであるか否かが第一歩である。

また、投資活動によるキャッシュ・フローは、投資活動に関する資金の動きが表示される。病院経営においては多くの土地・建物のほかに高額の医療機器等、多くの固定資産が必要となるので、投資の大部分は固定資産に対するものであると考えられる。つまり、土地・建物・医療用器械備品などの固定資産の取得・売却がそれにあたる。固定資産については、病院の施設設備に対しては補助金が支給されることがあるが、この補助金収入も投資活動に分類される。したがって、投資活動によるキャッシュ・フローはマイナスになることも当然ありうるわけである。

そして、財務活動によるキャッシュ・フローは、病院の資金調達と運用に関する資金の動きが表示される。医療サービスの提供のためには、資金を準備する必要があるが、業務活動から必要な資金を調達できることが好ましいが、より充実した医療サービスのためにはより多くの資金が必要となる。しかしながら、財務活動によるキャッシュ・フローはやはりプラスであることが妥当といえる。

図表 12-3 キャッシュ・フローの3つの区分

業務活動による キャッシュ・フロー	増減額	× × ×
投資活動による キャッシュ・フロー	増減額	× × ×
財務活動による キャッシュ・フロー	増減額	× × ×

<続く>

(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

患者数 いまだにコロナの影響あり

厚生労働省が、2月分の患者数の当集計データを公表しました。その結果、病院の患者数を、今年(2025年)2月末と新型コロナウイルス感染症の影響がまだ出ていないと考えられる2020年2月末とで比較すると、入院では5.3%減、外来では5.5%減となりました。

今年(2025年)2月末における「1日平均患者数」は、病院全体で▼入院：117万408人▼外来：118万2945人となりまして。

	1日平均患者数(人)			対前月増減(人)	
	令和7年2月	令和7年1月	令和6年12月	令和7年2月	令和7年1月
病院					
入院患者数					
総数	1 170 408	1 156 718	1 133 001	13 690	23 717
精神病床	255 353	254 244	255 085	1 109	△ 841
感染症病床	265	322	269	△ 57	△ 53
結核病床	858	921	942	△ 63	△ 21
療養病床	229 500	226 280	227 045	3 220	△ 765
一般病床	684 430	674 950	649 660	9 480	25 290
外来患者数	1 182 945	1 158 577	1 236 915	24 368	△ 78 338
診療所					
入院患者数	1 486	1 448	1 474	38	△ 26
療養病床					

注：数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。

(出典：病院報告(令和7年2月分概数)(厚生労働省))

2020年2月分

	1日平均患者数(人)			対前月増減(人)	
	令和2年2月	令和2年1月	令和元年12月	令和2年2月	令和2年1月
病院					
入院患者数					
総数	1 239 190	1 222 998	1 220 237	16 192	2 761
精神病床	278 345	278 200	278 363	145	△ 163
結核病床	1 343	1 336	1 377	7	△ 41
療養病床	266 089	264 611	266 045	1 478	△ 1 434
一般病床	693 259	678 772	674 333	14 487	4 389
(再掲)介護療養病床	24 606	25 464	26 371	△ 858	△ 907
外来患者数	1 251 217	1 248 972	1 323 554	2 245	△ 74 582
診療所					
入院患者数	3 884	3 878	3 917	6	△ 33
療養病床	1 360	1 390	1 423	△ 30	△ 39
(再掲)介護療養病床					

(出典：病院報告(令和2年2月分概数)(厚生労働省))

2023年2月と比べると、入院患者は3.2%の増加となり、外来患者は3.7%の減少となります。さらにその前々年の2021年2月と比べると、入院患者は0.8%の増加であり、外来患者は0.3%の増加でした。

入院患者も外来患者もコロナ渦前の状況と比べて、大きく減少したままで、いまだに元の状況に戻っていないことが分かります。

厚生労働省、中央社会保険医療協議会(中医協)においても、入院患者は新規患者は増加しているが、延べ入院患者数は減少している。外来患者数は延べ患者数がコロナ渦前に比べて、伸び率が鈍化していると報告されています。

患者数の減少は経営の悪化に直結してしまいます。

